

5期目の星野市長の市の課題に対する取組

(1)人口減少・少子高齢化対策

ア. 星野市長の人口政策について

●総人口の経緯をみると、星野市政が始まった平成19年は133,322人、平成23年の136,217人をピークに減少に転じ、令和5年は130,964人と市長就任時より2,358人減少。また、ピーク時より5,253人減少しています。

※総人口は各年1月1日現在の住民基本台帳人口

●東葛6市の中で、令和5年と平成19年を比較すると、総人口が減少している自治体は東葛6市の中で我孫子市と野田市だけです。

●また、年少人口は市長就任時より4,050人減少。

※平成19年:17,698人、令和5年:13,648人

●生産年齢人口は就任時より13,242人減少。

※平成19年:90,161人、令和5年:76,919人

●その一方で、高齢者人口は、(平成19年25,463人、その後、増加の一途をたどり令和5年は40,397人と就任時より)14,934人増加しています。

※平成19年:25,463人、令和5年:40,397人

◎市長は、※就任時と比較して総人口が東葛地域で最も減少している状況をどのように分析・評価しているのか、お聞かせください。

◎また、総合計画の※序論のなかには、「人口の減少は、市の歳入の根幹である市税収入の減少に直結します。少子高齢化と人口減少に歯止めをかけるため、これまで以上に若い世代の定住化促進や少子化対策を推進していく必要があります。」とありますが、市長の若い世代の定住化促進策、少子化対策をお聞かせください。

※我孫子市第四次総合計画 序論3. 我孫子市の概要 (3)人口の P13の下段

イ. 年齢構成について

●まちづくりや市の財政を考えるうえで、人口とともに年齢構成を考慮する必要があります。

●市長就任 2 年後の平成 21 と令和5年を比較すると、年少人口の総人口に占める割合は3.1%減少。

※平成 21 年:13.5%、令和5年:10.4%

●生産年齢人口は6.6%減少。

※平成 21 年:65.3%、令和 5 年は58.7%

●その一方で高齢者人口は9.7%増大しています。

※平成21年:21.2%、令和5年度:30.9%

●市長のこれまでの就任期間は、生産年齢人口や年少人口が減少し続け、その一方で高齢者人口は増加の一途をたどっていました。

◎我孫子市の年齢構成(人口構成)についての市長の見解をお聞かせください。

◎また、まちに活気を取り戻すためにも、持続可能な財政にしていくためにも生産年齢人口や年少人口を増やす取組が不可欠だと考えます。市長はどのような施策をお考えになっているのか、お聞かせください。

ウ. 選ばれるまちにするための施策

●高齢化率の高い我孫子市では、最近、社会増を自然減が上回っています。

●令和4年度は、自然減948人に対し、社会増が610人。結果として人口は338人減少しています。

●人口減少の大きな流れは変えられませんが、我孫子市を持続可能な

まちにしていくためには、適度な人口規模と年齢構成が重要です。

●我孫子市人口ビジョンでは、基本構想の最終年となる令和16年の人口を12万2千人と推計していますが、総合計画では将来目標人口を12万3千人と設定しました。

●人口減少の流れの中で、目標人口を達成するために我孫子市の魅力を磨き選ばれるまちにしなければなりません。

◎市長は選ばれるまちにするために、どんな我孫子の魅力を磨こうとお考えになっているのか、また、主にどの世代をターゲットにしてアピールしていくつもりなのか、そのためにどのような施策をお考えなのか、お聞かせください。

◎また、市長のチラシには、人口減少・少子高齢化対策として「人口が減っても生活水準を維持できるコンパクトなまちを構想していきます。」と書かれていますが、『コンパクトなまち』とはどのようなまちなのか、お考えをお聞かせください。

(2)我孫子市の財政状況

ア. 個人市民税の増収策

●我孫子市の歳入の根幹は市税であり、市税全体のおよそ半分を個人市民税が占めています。

●個人市民税の割合が高いことによって人口減少や高齢化が市税に与える影響は大きく、市長就任時の平成19年度の市税は186億3千万円でしたが、人口減少と高齢化の進展に伴い令和5年度には172億9千万円と13億4千万円減少しています。

◎我孫子市の財政を安定させるには、やはり個人市民税を増やす施策が重要であると考えますが、市長の個人市民税増収策をお聞かせください。

イ. 主な財政指数について

●※財政白書の主な財政指数をみると、最近(令和2年)の財政状況は、市長の就任時(平成19年)と比較すると悪化しているのではないかと心配になります。

※財政白書:令和4年6月策定 令和2年度決算版 我孫子市財政白書

●自治体の「財政力」を示す財政力指数は0.13ポイント下がり、東葛6市中3番目から5番目に順位が下がりました。相対的に財政力が落ちていることが分かります。

※平成19年:0.94、令和2年:0.81

●また、財政の硬直性を測る公債費負担比率は、0.3ポイント高くなり、東葛6市中公債費負担比率が最もよい自治体から大幅に順位を落として4番目となり、財政の硬直性が増したことが分かります。

※平成19年度:10.5%、令和2年度:10.8%)

◎財政力指数による市の財政力の低下、そして、公債費負担比率による財政の硬直性が増した要因をお聞かせください。

◎また、今後の改善策もお聞かせください。

※財政白書:令和4年作成の令和2年度決算版

ウ. 我孫子市財政シミュレーションについて

●令和2年策定の財政シミュレーションによると、歳入から歳出を引いた差引額は、来年令和6年度が9億4千万円の財源不足、つまり赤字。

●今後、歳入と歳出の差が拡大し、令和15年には17億3千万円の財源不足が見込まれおり、今後、大変厳しい財政状況が予想されます。

◎持続可能な財政運営を行うため、また、財政基盤を強固なものにするための市長の構想をお聞かせください。